

専門分野 I :基礎看護学

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名		
看護学概論	1	30	1	1・2	教育主事 (実務経験:病院での看護)		
到達目標							
看護の基本となる概念を学び、看護の位置づけと役割を理解できる 看護倫理について理解できる 看護を学問として追求し科学的思考を踏まえて主体的に看護について行動できる素地を養うことができる							
時	授業内容		方法	備考			
1	1. 看護とは 1)看護の主要概念(人間・健康・環境・看護)		講義	・看護のイメージを記述し発表する。講義の最後に、イメージの変化を各自整理する。			
2			グループワーク				
3			発表				
4	2)看護の定義 ・保健師助産師看護師法・看護職能団体 ・看護理論家 (1)ナイチンゲール (2)ヘンダーソン 3)看護の役割と機能 (1)看護ケアについて (2)看護実践とその質保障に必要な要件 (3)看護の質保障に不可欠な要件 (4)看護の役割・機能の拡大		講義	【課題】 ・ナイチンゲール著「看護覚え書」を読んでレポートを書く。 ・ヘンダーソン著「看護の基本となるもの」を読んでレポートを書く。 45分			
5	2. 看護の対象の理解 1)看護の対象としての人間 ・人間のこことからだ、生涯発達しつづける存在 ・人間の暮らし		講義				
6	3. 健康のとらえ方 ・健康とは、健康でない状態、障害とは 生活と健康、健康の実現、ライフサイクルと健康・生活 健康・生活とQOL		講義				
7	4. 看護の提供者 看護の歴史 1)ナイチンゲール以前の看護 2)近代看護の確立 3)アメリカにおける看護学の発展 4)日本における看護の変遷 ・職業としての看護 ・看護職の資格と養成にかかわる制度		講義				
8	5. 看護サービスの提供の場 1)看護サービス提供の担い手 2)チーム医療 3)医療施設における看護 4)地域における看護 5)継続看護		講義				
9	6. 看護理論 1)看護理論とは 2)看護理論に基づいた実践		講義				
10	各理論家の背景、主要概念、理論の内容 ・事例を用いた看護の展開または具体的に理解した内容		グループワーク				
11			グループワーク				
12	各理論家のまとめ		発表				
13	7. 看護をめぐる制度と政策 1)看護制度 2)保健師助産師看護師法 3)看護業務基準		講義				
14	8. 看護における倫理 1)看護倫理 2)患者の権利とインフォームドコンセント 3)倫理的問題 4)看護者の倫理綱領		講義				
15	5)医療をめぐる倫理原則とケアの倫理 6)看護学生の実習における倫理		講義				
16	終講試験						
評価方法		筆記試験 レポート(100点, レポート配点については講師より説明)					
テキスト		専門分野 I 基礎看護学 看護学概論 看護の基本となるもの 看護覚え書 やさしく学ぶ看護理論				医学書院 日本看護協会出版会 現代社 日総研	

専門分野 I : 基礎看護学

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名	
基本看護技術 I (対象把握)	1	30	1	1	教員 (実務経験: 病院での看護)	
到達目標						
対象を把握する上で、共通する必要な基本的知識・技術を習得できる						
時	授業内容	方法	備考			
1	1. 観察 1)観察とは 2)看護における観察の重要性 3)観察の種類 4)観察の方法・実際 (1)直観的・系統的観察法 (2)観察の視点 (3)観察の手段 ・感覚器による観察、言葉による観察 器機・器具による観察：身体計測	講義	・ロールプレイング ・グループワークを通して観察の方法を学ぶ。 【事後学習】 ・他者(同意を得る)を観察しまとめる。観察した内容から自己の観察の視点を振り返る。 【事前学習】 ・血圧計の使い方を練習する。 【夏季休暇中の課題】 ・身近な人にバイタルサイン測定を実施する。			
2	2. バイタルサイン 1)バイタルサイン測定の目的 2)バイタルサイン測定の方法: 体温・脈拍・意識 (1)測定の方法 (2)測定時の留意点 (3)測定値の判断	講義				
3	3)バイタルサイン測定の方法: 呼吸・血圧 (1)測定の方法 (2)測定時の留意点 (3)測定値の判断	講義				
4	3. バイタルサイン測定の実際 ・呼吸測定 ・血圧測定 ・脈拍測定 ・体温測定	演習				
5						
6	実技試験					45分
7	4. 看護におけるフィジカルアセスメント 1)フィジカルアセスメントに共通する技術 ・視診・触診・聴診・打診	講義				
8	5. フィジカルアセスメントの方法 1)系統別フィジカルイグザムの方法: 呼吸器系 ・胸腹部ランドマーク	講義 演習				
9	2)系統別フィジカルイグザムの方法: 呼吸・循環器系	講義 演習				
10	3)系統別フィジカルイグザムの方法: 循環器系	講義 演習				
11	4)系統別フィジカルイグザムの方法: 筋・骨格器系 神経系	講義 演習				
12	6. コミュニケーションとは 1)コミュニケーションの特徴 2)コミュニケーションの基本・手段 3)構成要素と成立過程	講義				
13	7. 看護におけるコミュニケーション 1)目的 2)特徴 3)重要性 8. 関係構築のためのコミュニケーションの基本	講義				
14	9. コミュニケーションの実際: 事例討議 1)傾聴の技術 2)情報収集の技術 3)説明の技術 4)アサーティブネス	講義 演習				
15	10. コミュニケーションの実際	演習				
17	終講試験					45分
評価方法	筆記試験(60点) 実技試験(バイタルサイン測定)(40点)					
テキスト	専門分野 I 基礎看護学 基礎看護技術 I 医学書院 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院					

専門分野Ⅰ:基礎看護学

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
基本看護技術Ⅱ (安全を守る)	1	15	1	1・2	教員 (実務経験:病院での看護)
到達目標					
対象の安全を守るための必要な基本的知識・技術を習得できる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 安全の概念 1)安全とは 2. 安全を阻害する因子 1)対象者自身の問題 2)医療者自身の問題 3)生活環境や療養環境の場に潜む問題 4)主な事故の発生要因	講義	・安全はすべての看護技術の根底となるため学んだ知識・技術を復習し、基本看護技術・生活援助技術・臨床看護技術を学ぶ上で活用する。 【事前学習】 ・自分の生活環境など身近な事例を用いて安全について考える。 (新聞やニュースなどから情報収集する)		
2	3. 安全を守る技術 1)自ら事故発生要因にならないための行動 2)自ら事故を守る行為	講義	・演習前には技術の原理原則とその根拠について、テキストや動画を活用して学習する。 【事後学習】 ・主な感染経路とその対策についてまとめる。 ・演習後は学習した技術の原理原則を理解し、計画的に技術練習を行う。		
3	4. 感染防止の基礎知識 1)感染の成立と予防 2)感染拡大の防止の対応 3)感染防止の基本 (1)標準予防策(スタンダードプリコーション) (2)感染経路別予防策 (3)个人防护用具(PPE) (4)病原体除去(洗浄、消毒、滅菌) 5. 感染防止の実際(演習):1時間 1)手指衛生:衛生的手洗い (1)流水による手洗い (2)手指消毒	講義 演習	【事前学習】 ・必要な濃度の溶解液を作成するための計算式を確認する。		
4	6. 感染防止の基礎知識 ・消毒法 ・消毒液の計算 7. 無菌操作 1)無菌操作の基礎知識 2)滅菌手袋の装着	講義			
5	8. 無菌操作 1)滅菌物の取り出し方 2)隔離 3)ガウンテクニック 4)感染拡大の防止の対応 5)感染性廃棄物の取り扱い	講義			
6	9. 感染防止の実際(演習) 1)滅菌手袋、滅菌ガウン・プラスチックエプロン着用、外し方	演習	45分		
7	10. 感染防止の実際(演習) 2)無菌操作	演習			
8	終講試験		45分		
9	実技試験(無菌操作)		45分		
評価方法	筆記試験(60点)・実技試験(無菌操作)(40点)				
テキスト	専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院				

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
基本看護技術Ⅲ (看護過程)	1	30	1	2	教員 (実務経験: 病院での看護)
到達目標					
対象の看護上の問題を解決するための思考過程を理解し、看護過程の展開方法を習得できる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 看護過程の意味と位置づけ 1)看護過程の基盤となる考え方 (1)問題解決過程 (2)クリティカルシンキング (3)倫理的判断と価値判断 (4)リフレクション 2)看護過程と看護理論との関係	講義	<p>・日頃、問題が生じた際にどのように解決しているか振り返る。</p> <p>【事前学習】</p> <p>・看護学概論のヘンダーソンの看護理論を学習する。</p> <p>・主要概念について自己の考えをまとめる。</p> <p>【事前学習】</p> <p>・地域で行われている健康教育にどのようなものがあるか調べる。</p> <p>【事前学習】</p> <p>・看護学概論の看護師の責務について学習する。</p> <p>・看護学生の情報管理についての世間で生じた問題について調べる。</p>		
2	2. 看護過程とは 3. 看護過程の構成要素 1)アセスメント 2)看護問題の明確化 3)計画 4)実施 5)評価 4. 看護過程の展開方法	講義			
3	5. 看護過程の実際 1)ヘンダーソンの看護論に基づくアセスメント (1)情報収集	講義 グループワーク			
4	2)ヘンダーソンの看護論に基づくアセスメント (1)情報の確認 (2)情報の解釈・分析	講義 グループワーク			
5	3)ヘンダーソンの看護論に基づく看護問題の明確化 (1)関連図	講義 グループワーク			
6	4)ヘンダーソンの看護論に基づく看護問題の明確化 (1)問題抽出	講義 グループワーク			
7	5)ヘンダーソンの看護論に基づく計画の立案 (1)看護目標の設定	講義 グループワーク			
8	6)ヘンダーソンの看護論に基づく計画の立案 (1)看護計画の立案	講義 グループワーク			
9	7)ヘンダーソンの看護論に基づく実施・評価	講義 グループワーク			
10	1. 指導技術の意義と重要性 2. 対象・場所による指導技術 1)発達段階、健康時、健康障害時 2)個別指導 3)集団指導	講義			
11	3. 対象・場所による指導技術 1)個別指導 2)集団指導 3)VTR視聴 4. 効果的な指導の実際 1)指導のプロセス 2)指導技法	講義			
12	5. 健康教育・保健指導の指導案の作成	グループワーク			
13		発表			
14					
15	3. 記録 1)記録とは、記録の意義・目的、看護記録の基本的要素 種類: POS、フォーカスチャータリング、記録の様式 2)記録の管理、法的根拠、記録時の留意事項: 情報開示含む 4. 報告 1)報告とは、報告の意義と目的、種類、報告時の留意事項	講義			
16	終講試験				
評価方法	筆記試験(100点)				
テキスト	専門分野 I 基礎看護学 基礎看護技術 I 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実際 看護の基本となるもの 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント			医学書院 ヌーヴェルヒロカワ 日本看護協会出版会 学研	

専門分野Ⅰ・基礎看護学

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
生活援助技術Ⅰ (環境・食生活・排泄)	1	30	1	1・2	教員 (実務経験:病院での看護)
到達目標					
対象の生活行動(環境を整える・食生活・排泄)への援助技術を行う上で必要な知識・技術を習得できる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 環境調整技術の基礎知識 1)環境とは 2)人間にとって環境の意味 2. 快適な生活環境とは	講義	【事前学習】 ・看護学概論の主要概念の定義について学習する。 ・ナイチンゲール著「看護覚え書」を読み要約する。		
2	3. 健康な生活環境 1)至適環境条件とは 2)生活環境の因子 (1)生理的欲求が満たされる場としての環境 (2)社会生活の欲求が満たされる場としての環境 (3)快適さの個人差 4. 患者にとっての快適な生活環境 1)患者の生活環境の条件 (1)病棟の構造、病室の広さ、プライバシー (2)病室、ベッドの種類、高さなど (3)室内気候、採光、騒音など	講義	【事前学習】 ・自分にとって健康な生活環境についてまとめる。 ・学習環境の温度、湿度等を測定し快適さに関与している条件について考える。 【事前学習】 ・テキストを活用し環境整備・ベッドメイキングの方法・手順を調べる。 ・臥床患者のシーツ交換の手順・方法について調べる。		
3	5. 療養環境を整える援助の方法 1)環境整備 2)ベッドメイキング	講義			
4	6. 療養環境を整える援助の実際 1)ベッドメイキング 2)リネンのたたみ方	演習	【事後学習】 学習した技術の原理原則を理解し、技術練習を行う。		
5	3)臥床患者のシーツ交換	演習			
6	7. 療養環境を整える援助の実際:演習の振り返り	講義	45分		
7	8. 食べるとは 1)食事と栄養の意義 2)食事のメカニズム 3)食行動に影響を与える因子 4)食欲のメカニズム 5)味覚	講義	【事前学習】 解剖生理学Ⅱの消化管の解剖と機能、栄養と消化・吸収機能、嚥下の過程について学習する。 ・自己の食生活をまとめる。		
8	9. 食事と栄養のアセスメント 1)栄養状態のアセスメント (1)観察、計測 (2)指標と検査データ: BMIなど (3)食事摂取基準 2)水分・電解質バランスのアセスメント 3)食欲のアセスメント 4)摂食・嚥下能力のアセスメント 5)摂食行動のアセスメント	講義			
9	10. 医療施設で提供される食事の種類と形態 1)特別食 2)食形態 11. 食事行動を整える援助の方法 1)食事摂取の介助 2)事故防止(誤嚥)	講義			
10	12. 食事摂取の援助の実際 : 食事介助	演習			
11	13. 自然排尿および自然排便の基礎知識 1)排泄の意義 2)排泄器官の機能と排泄のメカニズム 3)排泄に影響する因子	講義	【事前学習】 ・解剖生理学Ⅱ、Ⅳの食物の消化と糞便の形成、排尿をつかさどる神経、排便をつかさどる神経をまとめる ・排泄記録(排便・排尿日誌)をつける。 排泄環境 ・各種便器・尿器の目的・用途・特徴についてまとめる。 ・おむつ交換の動画を視聴する。		
12	14. 排泄のアセスメントに必要な視点 1)排尿のアセスメントに必要な視点 2)移動動作のアセスメントに必要な視点 3)心理・社会的状態のアセスメントに必要な視点	講義			
13	15. 自然な排泄を促すための援助 1)トイレ 2)ポータブルトイレ 3)床上排泄援助(尿器・便器)・おむつ	講義 演習			
14	16. 排泄の援助の実際(演習) 便器、尿器の挿入、おむつ交換	演習			
15		演習			
16	終講試験		45分		
評価方法	筆記試験(100点)				
テキスト	専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術		医学書院 医学書院		

専門分野 I : 基礎看護学

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
生活援助技術Ⅱ (清潔・衣生活)	1	30	1	1・2	教員 (実務経験: 病院での看護)
到達目標					
対象の生活行動(身体の清潔・衣生活)への援助技術を行う上で必要な知識・技術を習得できる。					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 清潔とは 1)清潔の意義、目的 2)皮膚の構造と生理 3)清潔に影響を与える因子(身体面・精神面・社会面)	講義	【事前学習】 ・自己の清潔・衣生活において大事にしていること・価値観をまとめる。 ・解剖生理学のテキストを活用し、皮膚の構造や働きについて調べる。 【事前学習】 解剖生理学Ⅱの身体各部の関節可動域について学習する。 【事前学習】 ・生活援助技術Ⅰベッドメイキング、臥床患者のシーツ交換について学習する。 ・各演習前には事前学習の課題あり。技術について原理原則とその根拠について、テキスト・動画を活用しまとめる。 【事後学習】 学習した技術の原理原則を理解し、計画的に技術練習を行う。		
2	2. 衣生活とは 1)衣服を用いることの意義 2)衣服気候 3. 衣服に関するニーズのアセスメント 1)衣類に影響を及ぼす因子	講義			
3	4. 衣服の条件と選択 1)寝衣に求められる条件 2)下着に求められる条件 3)病衣の選び方(病衣の種類: 和式寝具、パジャマなど)	講義			
4	5. 衣生活の援助の方法 1)和式寝衣交換の援助 2)和式寝衣のたたみ方	講義			
5	6. 臥床患者の寝衣交換の実際	演習			
6	7. 全身の清潔法:入浴、シャワー浴、全身清拭 1)援助の種類と適応 2)援助が身体に及ぼす影響 3)入浴、シャワー浴、全身清拭の援助の基礎知識	講義			
7	8. 清潔の援助の実際 : 臥床患者の全身清拭	演習			
8	9. 各部の清潔法:足浴・手浴 1)援助の種類と適応 2)援助が身体に及ぼす影響 3)足浴・手浴の援助の基礎知識	講義 演習			
9	10. 清潔の援助の実際 : 足浴	演習			
10	11. 各部の清潔法:洗髪 1)援助の種類と適応 2)援助が身体に及ぼす影響 3)洗髪の援助の基礎知識	講義 演習			
11	12. 清潔の援助の実際 : 洗髪	演習			
12	13. 各部の清潔法:陰部洗浄 1)援助の種類と適応 2)援助が身体に及ぼす影響 3)陰部洗浄の援助の基礎知識	講義 演習			
13	14. 清潔の援助の実際 : 陰部洗浄	演習			
14	15. 各部の清潔法:口腔ケア・整容 1)援助の種類と適応 2)援助が身体に及ぼす影響 3)口腔ケア・整容の援助の基礎知識	講義 演習			
15	実技試験			45分	
16	終講試験			45分	
評価方法	筆記試験(60点)・実技試験(清拭・寝衣交換)(40点)				
テキスト	専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院				

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
生活援助技術Ⅲ (活動・休息)	1	15	1	1	教員 (実務経験:病院での看護)
到達目標					
対象の生活行動(休息・睡眠・活動・運動・効率的で安楽な動きをつくり出す)への援助技術を行う上で必要な知識・技術を習得することができる。					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 基本的活動の基礎知識 1)活動・運動の意義 (1)活動のメカニズム (2)日常生活動作 (3)活動、運動の効果 2)活動と運動に影響する要因 2. 休息と睡眠 1)休息と睡眠の意義 2)睡眠のメカニズム 3)休息と睡眠に影響を与える要因 4)休息と睡眠を促す援助	講義	【事前学習】 ・解剖生理学Ⅱの骨格・骨格筋・関節運動の構造と機能について学習する。		
2	3. ボディメカニクスの原理と看護実践への活用 1)ボディメカニクスの原理 2)看護動作のポイント:作業姿勢、作業域、作業面の確保 4. 体位 ・水平移動(左右への移動) ・仰臥位から側臥位への移動 ・側臥位から端座位への移動 ・端座位から立位 側臥位からシムス位 5. 安楽な姿勢・体位保持(ポジショニング)	講義	【事前学習】 ・物理学の「力のつりあい」「力のモーメント」と合わせて学習する。		
3	6. 移動の援助 1)移動の意義・目的 2)移動の援助と安全:転倒・転落など 3)援助の方法 (1)車椅子への移動 (2)ベッドからストレッチャーへの移動	講義	【事前学習】 ・解剖生理学Ⅴの自律神経について学習する。 【事前学習】 ・自己の1日(24時間)の生活行動についてまとめ、活動と睡眠に影響していることについて考え提出する。		
4	7. 移動の技術(体位変換) ・水平移動、仰臥位から長座位、長座位から端座位	演習	・「同一体位による身体面・精神面への影響」についてまとめ、提出する。		
5	8. 移動の技術(車椅子への移乗) ・端座位から車椅子への移乗	演習			
6	9. 車椅子、ストレッチャー移送の援助技術 (1)車椅子での移送 (2)ストレッチャーでの移送	講義			
7	10. 車椅子、ストレッチャー移送の実際(演習) ・車椅子の移送 ・ベッドからストレッチャーの移動及び移送 ・スライディングシートを使用した移乗方法	演習	45分		
8	実技試験		45分		
9	終講試験		45分		
評価方法	筆記試験(60点)・実技試験(体位変換・車椅子への移動)(40点)				
テキスト	専門分野 I 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院				

専門分野Ⅰ：基礎看護学

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名	
臨床看護技術Ⅰ (経過・主要症状)	1	30	1	2	教員 (実務経験：病院での看護)	
到達目標						
健康障害をもつ対象の経過および主要症状に応じたニーズを理解し、その援助について習得することができる						
時	授業内容		方法	備考		
1	1. 健康状態の経過に基づく看護 ・経過とは 2. 急性期における看護 1)急性期とは 2)急性期の特徴 3)急性期の患者のニーズ		講義	【事後学習】 ・各経過の特徴と経過に応じた看護をまとめる。 【事前学習】 ・解剖生理学Ⅳの排泄に関連する内容、生活援助技術Ⅰの自然排泄について、基本看護技術Ⅱの清潔操作について学習する。 ・一時的導尿の動画を視聴する。		
2	3. 回復期における看護 1)回復期とは 2)回復期の特徴 3)回復期の患者のニーズ		講義			
3	4. 慢性期における看護 1)慢性期とは 2)慢性期の経過 3)慢性期の患者のニーズ		講義			
4	5. 終末期における看護 1)終末期とは 2)終末期の特徴 3)終末期の患者のニーズ		講義			
5	6. リハビリテーション期における看護 1)リハビリテーション期とは 2)リハビリテーション期の特徴 3)リハビリテーション期の患者のニーズ		講義			
6	7. 主要症状別看護：疼痛 1)痛みとは 2)痛みの分類とメカニズム 3)痛みの観察とアセスメント 4)痛みをもつ対象への援助 8. 体温の障害 1)発熱のメカニズム 2)体温の観察とアセスメント 3)体温障害を示す対象への援助方法：(1)安静(2)覆法		講義			
8	9. 循環障害 1)循環障害とは 2)浮腫のメカニズム 3)循環障害を示す対象の観察とアセスメント 4)循環障害を示す対象への援助方法		講義			
9	8. 呼吸障害 1)呼吸困難のメカニズム 2)呼吸障害を示す対象の観察とアセスメント 3)呼吸障害を示す対象への援助方法 (1)気道の確保：吸引		講義			
10	(2)酸素の供給：酸素吸入、酸素ポンプの取り扱い		講義			
11	(3)換気の促進：体位の工夫(スクイーピング) (4)薬剤の投与：ネブライザー吸入		講義			
12	9. 呼吸障害をもつ対象への援助の実際 ・吸引(口腔、鼻腔)、酸素吸入、酸素ポンプの取り扱い		演習			
13	10. 排泄障害 1)排便障害の種類 2)排便障害を示す対象の観察 3)排便障害を示す対象への援助の方法：グリセリン浣腸		講義			
14	11. 排泄障害 1)排尿障害の種類 2)排尿障害を示す対象の観察 3)排尿障害を示す対象への援助の方法： 一時的導尿・膀胱留置カテーテル		講義			
15	12. 排泄障害を示す対象への援助の実際：一時的導尿		演習			
16						
17	終講試験					45分
評価方法		筆記試験(100点)				
テキスト		専門分野Ⅰ 基礎看護学 専門分野Ⅱ 成人看護学 看護過程に沿った対症看護	臨床看護総論 成人看護学総論 病態生理と看護のポイント	医学書院 医学書院 学研		

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名		
臨床看護技術Ⅱ (治療・処置)	1	30	1	2	教員 (実務経験：病院での看護) 院内講師		
到達目標							
健康障害をもつ対象の治療・処置に伴うニーズを理解し、その援助を習得することができる。							
時	授業内容	方法	備考				
1	1. 手術療法 1)手術療法とは 2)手術療法が及ぼす身体への影響 3)手術療法の過程：手術前・手術中・手術後	講義	【事後学習】 ・麻酔をかけることによる身体の変化(麻酔が身体に及ぼす影響)についてまとめる				
2	2. 手術療法を受ける対象の特徴 1)手術前 2)手術中 3)手術後 3. 手術療法を受ける対象への援助方法 1)手術前 2)手術中 3)手術後	講義					
3	4. 麻酔とは 1)麻酔の種類 2)麻酔が及ぼす身体への影響	講義					
4	1. 放射線療法 1)放射線療法とは 2)放射線の種類 3)放射線の作用 4)放射線の性質 5)放射線同位元素 2. 放射線が人体に及ぼす影響 1)放射線に対する感受性 2)放射線障害 3)放射線宿酔 3. 照射方法 1)対外照射療法 2)密封小線源療法 3)非密封小線源療法 4. 放射線療法を受ける対象の援助 1)レントゲン、CT、MRI 5. 放射線防御と看護管理 1)被爆防護の原則 2)健康管理	講義		【事後学習】 ・被爆の3原則についてまとめる。			
5	1. 救急法 1)救急法とは 2. 救急状況にある対象のニーズ 1)身体的特徴 2)心理的特徴 3)社会的特徴 3. 救急状況にある対象の援助 1)対象の状態把握 2)救命救急処置：一次救命処置、二次救命処置 3)救命処置の方法：心肺蘇生法、止血法 4)家族への援助 4. 救命処置の実際：心肺蘇生法(演習)	講義 演習		【事前学習】 ・AEDが設置されている場所を調べる。			
6	1. 検査 1)検査とは 2)検査の意義・目的 3)検査の種類：検体検査、生体検査 2. 検査を受ける対象の援助 1)検査における看護師の役割 2)生体検査の援助 (1)生理機能検査：呼吸機能検査・心電図検査 (2)画像診断検査：X線検査・CT・造影検査 MRI・内視鏡 (3)超音波検査・核医学検査	グループ ワーク 発表		【事前学習】 ・検査について調べる ・静脈血採血を実施する血管の走行と周囲の組織について調べる			

専門分野Ⅰ：基礎看護学

時	授業内容	方法	備考
7	3. 検査を受ける対象の援助 1) 検体検査の援助 (1) 検体の取り扱い：尿・便・喀痰・穿刺液 (2) 検体の採取：採尿法、骨髓穿刺、腰椎穿刺、胸腔穿刺	講義	45分
8	1) 検体検査の援助 (1) 検体の取り扱い：血液 (2) 検体の採取：採血法	講義	
9	4. 検体検査の援助の実際：採血法	演習	
10	1. 薬物療法 1) 薬物療法とは 2) 薬物療法の目的・意義 3) 薬物の作用・吸収過程 2. 薬物の投与経路の種類と適応 3. 与薬における看護師の役割 1) 正しい与薬 6R 2) 薬物療法中の対象のニーズの把握と充足のための援助	講義	【事前学習】 ・薬物の作用・吸収過程について、薬理学と関連づけて学習する。 ・皮膚の組織・血管の走行についてまとめる。 【事後学習】 ・輸液療法を受ける対象の、日常生活行動への影響と援助についてまとめる。
11	4. 各与薬法の援助方法 1) 経口与薬法 2) 直腸内与薬法 3) 塗布・塗擦法 4) 点眼・点鼻 5) 吸入	講義	
12	5. 各与薬法の援助方法 1) 注射法 (1) 注射法の種類：皮下・皮内注射・筋肉・静脈注射 (2) 注射器具の取り扱い (3) 薬液の準備(アンプル・バイアル)	講義	
13	6. 輸液療法 1) 輸液療法とは 2) 輸液療法の目的・意義 3) 輸液の種類と特徴 7. 輸液療法を受ける対象への援助 1) 看護師の役割 2) 点滴静脈内注射の方法 (1) 物品の構造と取り扱い (2) バイアルのミキシング (3) 輸液セットの準備と接続 (4) 滴下数の調節 (5) 輸液中の観察 (6) 注射針の刺入・固定	講義	
14	8. 点滴静脈内注射の準備 1) 6R、注射器 2) 注射針の取り扱い 3) バイアルのミキシング 4) 輸液セットの準備と接続 5) 滴下数の調整 6) 針刺し防止対策	演習	
15	9. 筋肉内注射 1) 6R、注射器 2) 注射針の取り扱い 3) アンプルからの薬液吸い上げ 4) 筋肉内注射	演習	
16	実技試験		45分
17	終講試験		45分
評価方法	筆記試験(60点) 実技試験(アンプルのミキシング・輸液セットの準備)(40点)		
テキスト	専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 専門分野Ⅰ 基礎看護学 臨床看護総論 医学書院 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院		

専門分野 I : 基礎看護学

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
看護研究の基礎	1	30	2	2	仲口 路子 教育主事
到達目標					
看護研究に関する基礎的知識を理解し、対象を総合的に捉え、看護過程を系統立てて実施することで問題解決への能力を養い、看護に必要な研究的態度を身につけることができる					
時	授業内容		方法	備考	
1	授業ガイダンス(進め方の説明, 注意事項, 評価について) コミュニケーションペーパーを記載し提出 1. 看護研究とは 2. 看護研究の意義 3. リサーチクエスト		講義/ディスカッション	担当: 仲口 路子 【事前課題】 テキストp4~p43を読む 【事後課題】「リサーチクエスト」とは何かを自分で考えてノートに書く	
2	4. 看護研究における文献検討 1) 情報の検索の方法 2) 文献レビューとその目的 3) 文献の読み方		講義/演習	iPadでの文献検索 【事前課題】 テキストp46~p82を読む 【事後課題】文献(原著論文)を1つ プリントアウトしてクリティークし、 次回の講義時に持参	
3	4. 看護研究における文献検討 4) 文献検索の結果と読み込んだ内容の発表 5. 研究における倫理的配慮 1) 研究における倫理的配慮の原則		講義/発表	【事前課題】 テキストp84~p106を読む 【事後課題】研究倫理が大変重要である理由ノードにまとめる	
4	6. 研究デザイン 1) 質的研究デザインと量的研究デザイン		講義	【事前課題】 テキストp108~p151を読む 【事後課題】自らの研究関心に基づき、どのようなデザインが望ましいかを考える	
5	7. データの収集と分析 1) データの収集方法 2) データ分析の方法 8. 研究を伝える		講義	【事前課題】 テキストp156~p202を読む 【事後課題】データに着目しながら自らの研究関心に基づき、文献検討を重ねる	
6	9. 研究計画書の作成 1) 研究計画書の書式と書き方について		講義/演習	【事前課題】 テキストp156~p202を読む 【事後課題】文献検討を重ね、研究計画書を書く	
7	10. 研究計画書の作成		演習	【事前課題】 文献検討を深化させる 【事後課題】文献検討を重ね、研究計画書を完成させる 【終講後の提出課題】自らの研究関心に基づき、テーマを設定して研究計画書を作成し、提出	
8	10. 研究計画書の作成 45分				
9	11. ケーススタディとは 1) ケーススタディの定義 2) ケーススタディの目的 3) 看護学生がケーススタディをまとめる意義 4) ケーススタディの限界と考慮点 12. 看護実践からケーススタディ 1) 患者の見方		講義	担当: 教育主事 【事後学習】 ・学会誌等を参考に、どのようなテーマ・内容で事例研究がされているか、論文の構成を学習する。 ・実習中に文献検索を行い、文献を参考に実践を行う。	
10	2) 記録の実際 3) ケーススタディの実際 4) ケーススタディの過程と行うにあたっての原則		講義		
11	13. ケーススタディ計画書 14. まとめ方と発表		講義		
12	15. ケーススタディクリティーク		演習		
13	ケーススタディクリティーク		発表		
14	16. ケーススタディ研究計画書の作成		演習		
15	ケーススタディ計画書指導・論文の作成		演習		
16	ケーススタディ論文の作成 45分		演習		
評価方法		研究計画書・クリティーク・ケーススタディ計画書(100点)			
テキスト	看護研究 医学書院 わかりやすいケーススタディの進め方 照林社				

【専門分野 I】

科目	単位	時間数	配当年次	学期	担当者
基礎看護学実習 I	1	45	1年次	前期・後期	各実習担当者
到達目標					
対象を取り巻く生活環境及び日常生活上のニーズを理解し、原理・原則に基づいて日常生活援助が実施できる。					
授業内容					
<p>【基礎看護学実習 I - I (環境実習)】</p> <p>1. 入院生活を送る対象の療養環境を理解する。</p> <p>1) 対象をとりまく生活環境が理解できる。</p> <p>2) 対象を尊重した態度で接することができる。</p> <p>【基礎看護学実習 I - II】</p> <p>1. 対象をとりまく生活環境が理解できる。</p> <p>1) 対象の物理的・人的・社会的環境が理解できる。</p> <p>2) 対象の入院前後の生活環境の変化が理解できる。</p> <p>3) 対象の快適な生活環境を整える援助の必要性について理解できる。</p> <p>2. 対象の生活行動を観察し、ニーズが理解できる。</p> <p>1) 対象の生活行動が観察できる。</p> <p>2) 対象のニーズが理解できる。</p> <p>3. 対象の生活行動への援助が原理・原則に基づいて実施できる。</p> <p>1) 対象に必要な日常生活援助が、看護師とともに、原理・原則に基づいて実施できる。</p> <p>2) 自分の行った援助を客観的に振り返ることができる。</p> <p>4. 対象や医療者とのかかわりを通して、看護者としての態度を身につける。</p> <p>1) 対象や家族、医療スタッフとコミュニケーションをとることができる。</p> <p>2) 対象を尊重した態度で接することができる。</p>					
授業形態	実習				
評価方法	履修規程第6条、第12条、第13条、第14条に定めるとおりとする 観察、口頭、諸記録などを、評価表を用いて総合的に評価する				
その他					

【専門分野Ⅰ】

科 目	単 位	時間数	配当年次	学期	担 当 者
基礎看護学実習Ⅱ	2	90	2年次	前期	各実習担当者
到 達 目 標					
健康障害をもつ対象のニーズを理解し、対象に必要な看護が根拠に基づき計画的に実施できる。					
授 業 内 容					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の経過や症状、治療・処置が理解できる <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の症状の発生機序が理解できる 2) 対象に出現している症状を観察することができる 3) 対象に行われている治療・処置・検査が理解できる 2. 症状や経過、治療・処置が対象の生活行動やニーズに及ぼす影響が理解できる <ol style="list-style-type: none"> 1) 経過・症状が対象の生活行動やニーズに及ぼす影響が理解できる 2) 治療・処置・検査が対象の生活行動やニーズに及ぼす影響が理解できる 3. 対象のニーズの充足状況を理解し、対象に必要な援助が判断できる <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象のニーズの充足状況が分析できる 2) 看護上の問題点を抽出し、必要な援助が判断できる 4. 対象に必要な援助が根拠に基づき立案でき、実施できる <ol style="list-style-type: none"> 1) 根拠に基づいた看護計画が立案できる。 2) 対象の安全・安楽・自立を考慮した援助が実施できる 5. 実施した援助を客観的に振り返り、評価することができる <ol style="list-style-type: none"> 1) 実施した援助を対象の反応や結果から評価できる 2) 評価に基づき、看護計画の追加・修正ができる 6. 対象や医療者との関わりを通して、看護者としての望ましい態度を身につけることができる <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象や家族、医療スタッフとコミュニケーションをとることができる 2) 対象へ倫理的配慮ができる 					
授業形態	実習				
評価方法	履修規程第6条、第12条、第13条、第14条に定めるとおりとする 観察、口頭、諸記録などを、評価表を用いて総合的に評価する				
その他					